

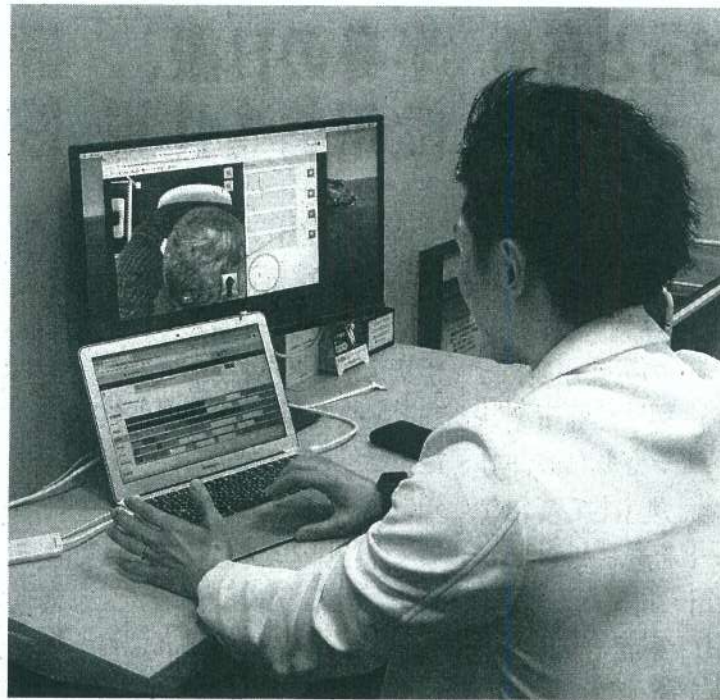
# オンライン診療 コロナで脚光

スマートフォンやパソコンの画面越しに医師の診察を受けるオンライン診療が広がっている。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ観点から、期間限定でこれまでの規制が大幅に緩和されたからだ。外出自粛が続く中、診療機会を増やし、治療を途切れさせない手段になると期待される。対面診療と適切に組み合わせれば、医師と患者の双方にメリットがありそうだ。

## 相談・指導に効果発揮

「現在、患者が来院にとっても慎重になっている。オンラインで受診できて助かるという声が多い」。東京都内で2カ所の内科・アレルギー科の診療所を経営する医療法人社団法山会の山

下蔵理事長はこう話す。2016年に始めたオンライン診療が思わぬ形で生きた格好だ。両院でオンライン診療を利用する患者は20人ほどだったが、3月以降は数倍に



AGAヘアクリニック(東京都千代田区)での水島院長のオンライン診療の様子

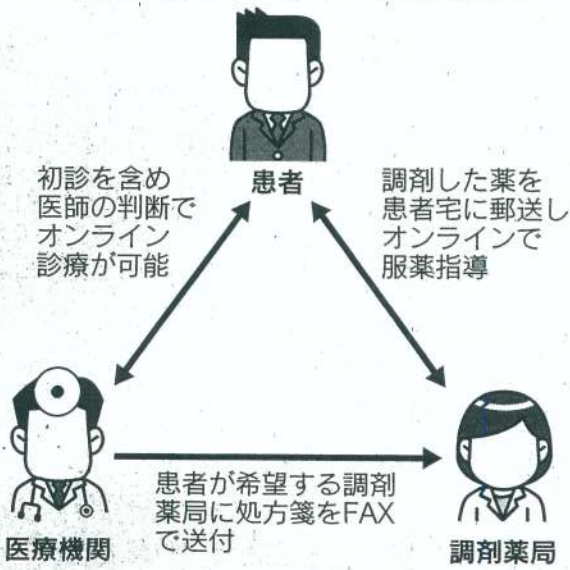
## 自粛生活でも治療途切れず

増えた。新型コロナの感染拡大で医療機関に足を運びにくい状況が生まれ、オンラインに切り替える患者が相次いでいるためだ。高血圧などの慢性疾患では定期的な受診や服薬が求められる。だが、「忙しいなどから通院が途切れる患者は以前から少なくない」と山下氏は話す。

患者満足度高く  
そこで治療継続に生かしてきたのがオンライン診療だ。対面診療の間隔を3カ月程度に伸ばし、その間の2カ月はオンラインで受診してもらおう。病状が安定していれば「診察の目的が触診などを伴わない相談や生活指導であることも多く、オンラインで十分対応できる」と(山下氏)。

オンライン診療にはマイシン(東京・千代田)のシステム「クロン」を使う。診察時はタブレット端末を

規制緩和後のオンライン診療の流れ



初診を含め医師の判断でオンライン診療が可能  
患者  
調剤した薬を患者宅に郵送しオンラインで服薬指導  
医療機関  
患者が希望する調剤薬局に処方箋をFAXで送付  
調剤薬局

## 適切な運用 課題も

オンライン診療の利用に期待が高まる中、その適切な運用が求められる。初診時や定期的な対面診療の必要性を訴える医師など関係者は多い。

AGAヘアクリニックの水島院長は「オンライン診療は患者との信頼関係が土台になる。対面診療との関係構築を大切にしている」と話す。ココロクリニック神田(東京・千代田)の山下佑介院長は「オンライン診療と対面診療との特長の違いを指摘する。同氏はうつ病や統合失

## 対面にも利点多く

調症など精神疾患の治療にオンライン診療を取り入れている。精神疾患では定期的な通院が難しい患者も少なくない。オンラインという手段で受診のハードルを下げられる利点は大きいという。ただし「患者の外見や歩き方、返事の仕方などに含まれる情報はかなり多く、対面診療の重要性は高い」と(山下氏)。来院が必要なケースを安易にオンラインで済ませることは、病気の見逃しや症状の悪化につながりかねない。医療の質を担保できるようなオンライン診療の利用の仕方を、医師と患者の双方が考える必要があると(大下淳一)

## 初診は来院で

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、厚生労働省は2月以降にオンライン診療の規制を大幅に緩和した。具体的には、疾患の種類によらず医師の判断でオンライン診療を実施できるようになった。事前の診療計画作成は不要で初診にも使える。オンライン診療に対応した初診料や再診料も設定され、医療機関にとっては収益面のマイナスも抑えられる。

これを受けオンライン診療を導入する医療機関は急増している。「導入に関する1日当たりの問い合わせ件数が従来の15倍に増えた」と(マイシン)と話す。今回、規制緩和されたオンライン診療の枠組みの一つとして、患者が薬局に足

を運ばずに処方薬を受け取れるようにもなった。医療機関が処方箋をFAXで調剤薬局に送信。薬局が薬を患者宅に送り、薬剤師がオンラインで服薬を指導することが認められた。

医師がその画像をパソコンで見ながら診察する形だ。同院で治療を受けている埼玉在住の30代男性は、勤務先の昼休みなどを利用してオンラインで受診してきた。「通院には往復3時間以上かかる。今は新型コロナウイルスの影響で長時間の移動は避けたいので、オンライン診療を利用していてよかった」と話す。

厚生労働省は現在のオンライン診療の規制緩和は「新型コロナウイルスの感染が収束するまで」と説明する。中長期的な制度改定につながるかどうかは、治療上の有用性を医師や患者がどのくらい実感できるかや安全性を担保できるかどうか次第だ。規制緩和をきっかけに「オンライン診療の利用が適切な形」で広がることを期待している。山下氏は話している。